

ふくはく Vol.38 2025.4.1 だより

編集・発行 文化学園服飾博物館

- “You”はどうしてふくはくへ? …… 1
- 2024年の活動報告 …… 2
- 2024年の活動報告とお知らせ …… 3
- 2025年 展示のご案内 …… 4

“You”はどうして ふくはくへ?

資料の「来歴」を知ろう

服飾博物館では多くの資料を受け入れています。それらがどこからどうして博物館にきたのか、ここにたどりつくまでどんな「人生」を歩んできたのか…。その情報を知ること、資料への理解と活用
の機会が広がります。ここでは、これまでに受け入れた資料の中から「来歴」に注目して紹介します。



民族衣装

チェコの民族衣装。日本人研究者が、1970年の大阪万博に参加したチェコスロバキア(当時)の関係者から譲り受けた。この衣装は万博開会式で使用されたことが写真からも分かる。



大阪万博開会式の様子(1970年)
松本漢子提供

大礼服

洪沢栄一(1840-1931)の明治期の大礼服とトランク。孫である洪沢敬三が推進した「日本実業史博物館」に、服飾博物館の初代館長、遠藤武(在任1979-86)が関わっていたことから、当館に収蔵された。



朝鮮王朝の衣装

徳恵翁主(1912-89)所用の儀礼服で、昭和31年に李家から寄贈された。その2か月前の昭和30年11月、李方子(当学園の文化祭に賀陽敏子らと訪れている。敏子の寄贈した十二単などの展示を見て、「私も服飾関係にタッチしております関係上、あちこちと見て歩きますが、こちらはさすがという感じです」と感想を述べている。この来校がきっかけで寄贈に至ったと考えられる。

*「婦人文化新聞」(昭和30年11月10日)



明治期のドレス

明治20年頃の「鹿鳴館」スタイルのドレスで、東洋汽船創始者の塚原周造夫人が着たもの。着用者の孫である女優の賀原夏子(1921-91)からの寄贈。賀原は昭和25-27年頃に文化服装学院学友会(演劇班)の講師をしており、その縁からの寄贈と考えられる。



民族衣装

「多摩東京移管100周年事業」(1993年)の一環として行われた「ファーマーズ・ファッション展」のために主催者が収集したインドやラオス、マリなど6か国、約80体分の民族衣装。イベント終了後に当館に寄贈された。

【オモシロイフク大図鑑】 3月11日～6月22日



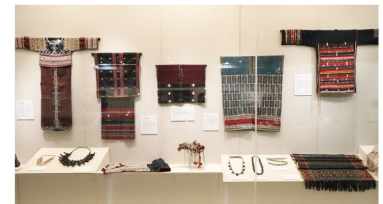
本展では約30か国のさまざまな衣服や付属品などを「ながい」「おおきい」「おもい」「まるい」「たかい」の5章に分けて紹介しました。フォルムそのものの持つ面白さばかりではなく、どうしてそのような形状になったのか、その意味も探り、気候への適応や外敵からの防御など、それぞれの民族が培ってきた暮らしの知恵や文化が表れていることが分かりました。来館者からは「見たこともない形の服は興味深くワクワクした」「楽しめて勉強になった」などといった感想が寄せられました。



【世界のビーズ】 7月19日～11月4日



本展は「世界の民族とビーズ」「ファッションとビーズ」の二部構成とし、出土品のビーズや交易品として珍重された「トンボ玉」にはじまり、象徴的な意味を持つアジアやアフリカの各民族の衣服や装身具、ヨーロッパのきらびやかなビーズ刺繍のドレスなど、約40か国、200点あまりの多種多様なビーズを紹介しました。また特別出品として、オートクチュールのビーズ刺繍を手掛ける田川啓二氏の作品も展示しました。展覧会はNHKの「すてきにハンドメイド」をはじめ、新聞などでも紹介され、多くの来館者を迎えることができました。



『世界のビーズ図鑑』ラトルズ刊 ¥3,278

田川啓二氏の作品

【あつまれ！ どうぶつの模様】 12月5日～2025年3月5日



鳥や獣などの動物をモチーフとした模様を衣服に取り入れることは、さまざまな地域で見られます。本展では、動物の模様を「空の動物」「陸の動物」「水の動物」「空想の動物」「動物大集合!」の5つのカテゴリーに分け、約40か国、160点あまりの衣服や装身具を紹介しました。動物模様には人々のさまざまな願いや思いが込められ、本来あるべき人と動物が共生する豊かな環境を改めて考えさせられました。会期中には「スカジャン」刺繍職人の山上大輔氏が、横振りミシンによる動物模様の刺繍の実演を行いました。



スカジャン【横振り刺繍】の実演

■「スケッチ・デー」を開催

当館では民族衣装やドレスなどをスケッチする来館者が多くみられます。スケッチ・デーは、スケッチをする人が思う存分楽しめる取り組みです。当日は展示室のあちこちにイスが配置され、また当日のみスケッチ目的でのタブレットの使用も許可されます。

実際に展示品をよく見ながら手を動かしてスケッチすることで、これまで意識しないで見ていた細かな部分にも気付くことができ、展示品への理解も深まります。スケッチした「作品」は、各自のSNSでもアップされ、楽しみながら展示をご覧いただけたようです。



■「トワイライト・ミュージアム」を開催

12月13日に「トワイライトミュージアム ～ドレスをよく見て知る世界～」を開催しました。このイベントは、閉館後の展示室で19世紀のドレスを熟覧する人数限定の催しです。参加者にはまず展覧会をご覧いただき、その後、朝日真先生（文化服装学院教授／文化学園服飾博物館特任研究員）の解説を聞きながら、机上に広げたドレスを間近に囲み、縫製の方法やカッティングなど、ドレスの細かな部分に注目して見学しました。

イベントで熟覧した
1860年代のドレス



■ 文化学園大学との連携

文化学園大学の教育や授業の中で服飾博物館を活用いただくとともに、多くの在学生に博物館を利用していただくための取り組みを行っています。

【在学生向けショートムービーの製作】



「ミュージアム de できな空きコマ時間」

企画：文化学園大学 造形学部 デザイン・造形学科 メディア映像クリエイションコース3年
制作：文化学園大学大学院 生活環境学専攻 デザイン・造形学専修1年

【展覧会 ジュニアガイドの製作】



「あつまれ！ どうぶつの模様」展 ジュニアガイド

企画：文化学園大学 博物館学研究室
制作：文化学園大学 造形学部 デザイン・造形学科4年 鶴岡翠 川畑萌泉 加古翔悟

■ 外部館への展示協力

【ベル・エポックー美しき時代】

山梨県立美術館 4月20日～6月16日
栃木県立美術館 7月13日～9月8日
パナソニック汐留美術館 10月5日～12月15日



栃木県立美術館



パナソニック汐留美術館



山梨県立美術館

【思い出のチマ・チョゴリ】

横浜ユーラシア文化館
10月4日～2025年1月5日



入館料改定及び土曜日の開館時間変更のお知らせ

2025年4月1日より入館料改定及び土曜日の開館時間変更をいたします。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【料 金】

一 般…1,000円 学 生…500円 小学生以下無料

【土曜日の開館時間】

10:00～15:00（最終入館は14:30）

リピーター割引制度は廃止します。

ぐるっとバスはこれまでと同じ無料入場となります。＊使用できない期間があります。

4月3日(木)～6月21日(土)

* 金=4/25、6/13は19:00まで開館
土=4/19、5/31、6/14は16:30まで開館
日=4/6、5/25は15:00、6/15は16:30まで開館

どうしてなんだか似てる服

Clothes with Similar Shapes, Clothes with Similar Patterns

世界のさまざまな地域の衣服を見ると、地図上では離れた地域であるにもかかわらず、文化や国を超えて形や模様が似ているものが見つかります。本展では服飾博物館の所蔵品の中から約30か国の服や染織品を選び、「かたちが似てる」、「もようが似てる」に分けて紹介します。それらを互いに並べて見比べることで、似ていることに何か共通点や理由があるのか、互いの地域の影響があるのかなど、人々が衣服に込めた意味や思いを探っていきます。



7月16日(水)～9月20日(土)

* 夏期休館=8/8～17
金=7/18、9/12は19:00まで開館
土=7/26、8/23、9/13は16:30まで開館
日=7/27は16:30、8/24は15:00まで開館

戦後80年企画 衣服が語る戦争

War Seen Through the Lens of Clothing

今年は第二次世界大戦が終結してから80年の節目の年です。日清、日露戦争下の明治時代後期から昭和20年の終戦まで、約50年の間に起こった戦況や暮らしの変化は、人々の衣生活や着ることの意識を大きく変えていきました。本展では、戦勝への期待の中で作られた着物、物資不足の節約生活の中で着られたもんぺや国民服、同時期の欧米のドレスやファッション誌、被服協会が調査のために収集したアジア各地の民族衣装などを展示し、戦争が衣服や人々の生活に及ぼした影響を考えます。また終戦後の装いや、平和への願いが込められた衣服なども紹介します。



10月6日(月)～11月4日(火)

文化学園大学 国際文化学部 国際ファッション文化学科 舞台衣装展示

衣が語る、物語が動く。

* 11/2、11/3は開館
金=10/24は19:00まで開館
土=10/18は16:30まで開館

文化学園大学 国際文化学部 国際ファッション文化学科では、卒業研究として、毎年、ファッションとパフォーミングアーツの融合を目指した舞台を企画制作する「卒業イベント」を行っています。実際の公演で着用した舞台衣装作品を中心に展示します。



主催：文化学園大学 *入館無料

11月22日(土)～12月4日(木)

* 11/24は開館

2025 International Fashion Art Exhibition, FCA

韓国ファッションの共鳴 —伝統から革新へ—

Resonance of K-Fashion: from Tradition to Innovation

韓国ファッション文化協会は、30年以上にわたり内外でファッションアート展を開催してきました。本展では、韓国の伝統、伝統を通じた文化の融合、そして未来につながる創造的な衣装を展示し、日本との文化交流を深め、より深い芸術的・文化的対話の促進を目指します。



FCA
The Korea Fashion & Culture Association

主催：韓国ファッション文化協会
<http://www.fashionca.co.kr/>
*入館無料

⚠️ 上記予定は変更・更新される場合があります。最新の情報はホームページでご確認下さい。

利用案内

- ◆開館時間 月～金 10:00～16:30 土 10:00～15:00
(各展示会期中2回程度、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆入館料 一般 1,000円・学生 500円・小学生以下無料
*20名以上は団体割引あり、障がい者とその付添者1名は無料
- ◆交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心口)より徒歩4分



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木 3-22-7
TEL. 03-3299-2387
<https://museum.bunka.ac.jp>



学校法人 文化学園
文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/
文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館